



まなびや

東市ヶ尾



五感をはたらかせて

副校長 山本 慶子



「ドン、ドン、ドドン!」「ドッ、ドッ、ドドドコドン!!」激しい太鼓のリズムが体育館中に鳴り響いています。11月10日に芸術鑑賞教室として、今年は和太鼓の演奏が行われました。太鼓のリズムに合わせて力強くソーラン節を踊ったり、獅子舞に扮して、子どもたちの頭をかじって（かじる真似）くれたりもしました。子どもたちは自分の頭も噛んでほしいと大興奮でした。ステージ上で跳びあがって踊る様子を前のめりになって見たり、太鼓の音や歌い手の伸びやかな声を聞いたり、太鼓の振動を身体で感じたりすることができました。4年ぶりの開催となった芸術鑑賞教室は子どもたちの熱気に包まれて終わりました。

2年生は地域の森さんの畑で育ったさつまいもを掘りに出かけました。空っぽだったスーパーの袋が帰って来た時には、さつまいもの重さに耐えきれず破れてしまっている子もいたほどです。子どもたちはまんたんになった袋を自慢げに持ち帰り、「重いよ〜」「力いっぱい引っこ抜いたよ」「お母さんに頼んでスイートポテトにしてもらおうんだ」と満面の笑みで報告してくれました。

1年生は秋の生活科見学で「野毛山動物園」にバスに乗って出かけました。初めて観光バスに乗るという子どもが多く、運転手さんに「よろしくお願いします」と元気に挨拶をして出発しました。野毛山動物園では、実際に動物にふれあうことができるコーナーがあります。昨年はコロナの影響で、触れることができませんでしたが、今年は順番を守って小動物に触れ合うことができました。「毛がふわふわしていて気持ちいい」「抱っこするとあったかいね」と、命のぬくもりを実感することができました。

地域では、11月25日（土）に「総合防災訓練」が4年ぶりに本校で開催されました。訓練に参加した子どもたちは、消防服を着たり、水消火器を使って消火器の使い方を知ったり、充滿したけむりの中を身体を低くして出口まで歩いたりする体験を行いました。日頃できない貴重な体験です。中でも校舎の4階に向かってどんどんはしごを伸ばして上がっていくはしご車の様子を見ていた子どもたち（大人の方も）は、そのいさましく、かっこいい姿に拍手を送っていました。

「見る（視覚）・聞く（聴覚）・匂う（嗅覚）・味わう（味覚）・触る（触覚）」というこれらの五感は、感受性の豊かな小学生時代に最も育つと言われています。この時代に育てられた感性は一生の宝物となっていきます。コロナが明け、制限された学校生活も、少しずつコロナ前の生活に戻りつつあります。多くの体験や経験を通して、これらの感性を大切に育んでいきたいと思えます。